

占冠村防災備蓄計画



令和2年7月

占 冠 村

1 はじめに

占冠村の災害用備蓄は、村民による平時からの食料や生活必需品の備えに加え、民間事業者との協定による物資の確保・調達することを基本とし、村による備蓄については最低限の品目・数量を確保することとしております。

しかしながら、これまで道内外で発生した災害では、被害が広範囲に及び、電気、ガス、水道などのライフラインや通信機能、道路、鉄道、空港などの物流機能が寸断し、物資の確保、輸送など生活インフラに大きな被害が発生しています。

このため、物資輸送が困難な状況を想定し、本村ではこれまで進めてきた備蓄拠点（防災備蓄倉庫・トナムコミュニティセンター）への「一括備蓄」から、村内各所の避難所に分散して備蓄する「分散備蓄」を行っています。

近年多発する自然災害に備え、災害時に迅速かつ円滑な応急対策活動に資するための備蓄体制を構築するべく、「占冠村防災備蓄計画」を策定するものであります。

なお、本計画は、状況の変化や新たな課題などが生じた場合には、必要に応じて随時検討を加え、修正することとします。

2 備蓄物資及び資機材購入の基本的考え方

令和2年3月に改定したの「占冠村地域防災計画」では、住民に対し、「最低3日分、推奨1週間分」の飲料水（1人3リットル/日）と食料、携帯トイレ、トイレットペーパー等を各家庭において確保できるよう、防災週間や防災関連行事等を通じた広報等の機会を用いて啓発を図ることとされています。

このため、村では広報紙、ホームページ、出前講座や行政区回覧等を通じて平時からの備蓄について継続的に啓発を行います。

各家庭における備蓄（自助）に加えて、それぞれの備蓄について基本的な考え方は以下のとおりとします。

(1) 行政備蓄

「行政備蓄」とは、村が平時から行う食料等の備蓄をいう。万が一の大規模災害に備え、平時から飲料水、食料、寝具、その他生活必需品、緊急度、重要度の高いもの、即時調達が困難なものについて計画的に備蓄・管理を行います。

(2) 家庭内備蓄

「家庭内備蓄」とは、村民が自らの家庭内において、最低3日分、推奨1週間分の食料や飲料品、その他生活必需品を備蓄し、災害時にすぐに持ち出せるよう保管するなど、日頃から災害時に必要な物資を備蓄することをいいます。

なお、村は、家族構成（乳幼児・高齢者・要介護者）に合わせた物資の備蓄や日常的に使用している食料品の買い置きを活用する「循環備蓄（ローリングストック）」の普及・啓発を行い、家庭内備蓄を推進します。

(3) 事業所内備蓄

「事業所内備蓄」とは、家庭内備蓄と同様に最低3日分、推奨1週間分の食料や飲料品、その他生活必需品を事業所内に備蓄することをいいます。

各事業所は、災害時に帰宅が困難となった者を安全が確保できるまでの間、事業所内に待機させることができる体制の整備に努める必要があります。

3 備蓄物資の配布人数

備蓄物資を配布する避難者の対象は、地震による災害及び洪水による災害により避難者数を想定することとします。

(1) 地震による避難者数

平成30年に北海道が公表した「平成28年度地震被害想定調査結果報告書」で想定している地震による避難者数は次のとおり。

	石狩低地東縁断層帯主部	石狩低地東縁断層帯南部	十勝沖
最大深度	5.4	5.6	5.2
避難者数	12人	20人	1人未満

地震による避難者数の最大の想定人数は20人とします。 ～①

(2) 占冠村洪水ハザードマップに基づき、浸水想定区域内にある行政区に居住する人数（令和2年4月1日現在）が避難すると仮定し、避難者を想定。

行政区	世帯数	人口	行政区	世帯数	人口
上双珠別	10	23人	千歳	130	249人
下双珠別	8	23人	占冠第一	27	35人
中央第二	4	9人	占冠市街	30	46人
宮下	80	147人	上トマム第一	75	111人
本通	85	169人	上トマム第二	89	136人
			合計	538	948人

洪水による避難者の最大の想定人数は948人とします。 ～②

(3) 備蓄物資支給対象者

①震災（20人） < ②洪水（948人） = 避難者数は948人と想定 ～③

「防災に関する世論調査」（平成29年11月内閣府）によると、家庭内備蓄の取組状況として、『大地震に備えて食料や飲料水を準備している』と回答された人の割合において、小都市の割合は42.1%であったことから、避難者数のうち、57.9%～④の方を備蓄物資支給対象者とします。

③避難者数948人 × ④物資支給対象者割合57.9% ≒ 550人～⑤

総務省消防庁「東海地震に係る広域的な地震防災体制のあり方に関する調査検討報告書（2003）」によると、食料給与数を避難所避難者数の1.2倍としていることから、上記人数⑤に1.2を乗じて得た数を備蓄物資支給対象とします。

⑤550人×1.2= 備蓄物資支給対象者数660人（1食相当で約660食）

なお、自衛隊、協定締結先（自治体・事業者）等からの供給・応援の到着には1～2日程度要するため、発災直後に不足する1日分（食料は3食分）について行政備蓄で対応し、不足分については家庭内備蓄等により対応することとします。

備蓄物資支給対象者において、年齢別に必要となる備蓄品目が異なると考えられることから、その年齢構成に応じた数量の備蓄を進めることとします。

4 行政備蓄品目

(1) 食料・飲料水

① アルファ化米

湯または水を注ぐだけで調理が不要であるとともに長期保存が可能な製品

【アルファ化米（おかゆ）】

咀嚼が困難な1歳～2歳、70歳以上の方を対象にした上記アルファ化米のおかゆ。

② 粉ミルク

乳幼児用としてミルクアレルギーを考慮した製品

③ 飲料水等

長期保存が可能で、ペットボトル等の製品（500ml）

■年齢構成に応じた備蓄の基礎となる数値（令和2年4月1日現在）

品目	年齢区分	割合
アルファ化米	3歳～69歳	81.8%
アルファ化米（おかゆ）	1歳～2歳・70歳以上	17.7%
粉ミルク	0歳	0.5%
飲料水（500ml）	全年齢	100%

(2) 生活必需品

避難所生活を行う上で、生活開始当初から必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄することとします。

品目		
毛布	紙おむつ（乳児用）	紙おむつ（大人用）
生理用品	ほ乳瓶	トイレットペーパー

■年齢構成に応じた備蓄の基礎となる数値（令和2年4月1日現在）

品目	年齢区分	割合
紙おむつ（乳児用）	0歳～3歳	1.3%
紙おむつ（大人用）	要介護3以上	0.9%
ほ乳瓶	0歳	0.5%
生理用品	10歳～55歳女性	25.7%

(3) 燃料類

停電時に備えて発電機用のガソリンと厳冬期に備えて暖房用の灯油を各指定避難所に備蓄することとします。(村有のトマムスタンドへの備蓄も含む)

(4) 資機材

防災活動や避難所運営等に必要な資機材を備蓄することとします。

品 目	
スコップ	投光器
つるはし	コードリール
掛け矢	ガソリン携行缶
脚立	灯油携行缶
ブルーシート	懐中電灯
ロープ	ろうそく
発電機	灯油ストーブ
リヤカー	拡声器

(5) 感染症対策備蓄品

避難所における感染症対策用品を備蓄することとします。

品 目	
段ボールベッド	間仕切り
空気清浄機	非接触型体温計
パーテーション	簡易トイレ・袋式トイレ
アルコール消毒液	マスク・フェイスシールド・手袋
防護服・雨合羽	大型扇風機
ペーパータオル	

5 行政備蓄品目と目標数量

行政備蓄資材の計画数量は次のとおりとします。不足する物資及びこれ以外の物資については、家庭内備蓄、事業所内備蓄及び救援物資等により必要数量の確保に努めます。

(1) 食料・飲料水

【備蓄目標数量】

品 目	算 出	目 標 値
アルファ化米	660人×3食×1日×81.8% (年齢構成比)	1,620食
アルファ化米 (おかゆ)	660人×3食×1日×17.7% (年齢構成比)	350食
粉ミルク	660人×0.5% (年齢構成比) ×135g/日× 1日÷350g	2缶

飲料水	660人×2本	1,320本
-----	---------	--------

※粉ミルク 1人当たり1日1,000mlとして1日分を目安に備蓄する。1回あたりの調乳量を200ml(粉換算：27g)、1日5回(粉換算：135g)として1缶当たり350gを基準とする。

(2) 生活必需品

【備蓄目標数量】

品目	算出	目標値
毛布	948人×1人あたり1枚	948枚
紙おむつ(乳児用)	948人×1.3%(年齢構成比)×1日×1人あたり8枚	96枚
紙おむつ(大人用)	948人×0.9%(年齢構成比)×1日×1人あたり6枚	54枚
ほ乳瓶	948人×0.5%(年齢構成比)×1日×1人あたり1本	5本
生理用品	948人×25.7%(年齢構成比)×1日×1人あたり8枚	1,952枚
トイレットペーパー	948人×9m×1日÷60m	142ロール

※紙おむつ(乳児用) 1人1日当たり8枚として1日分を備蓄する。

※紙おむつ(大人用) 1人1日当たり6枚として1日分を備蓄する。

※ほ乳瓶 1人当たり1個を目安として備蓄する。

※生理用品 1人1日当たり8枚として1日分を備蓄する。

※トイレットペーパー 1人1日当たり9mとして1日分備蓄する。
(1ロール当たり60m)

(3) 燃料類

避難所の発電機用ガソリン、防寒対策として配置するストーブ用の灯油を各避難所に保管するとともに運搬用の携行缶を備蓄することとします。

品目	算出	目標値
ガソリン	避難所発電機用ガソリン 20リットル携行缶2個×9箇所	各避難所 40リットル
灯油	避難所石油ストーブ用灯油 20リットル携行缶2個×9箇所	各避難所 40リットル

※ その他、村有トマムスタンドに備蓄を確保(ガソリン、軽油、灯油を各2,000リットル)する。

(4) 資機材

防災活動を現地で行う村職員数、消防職員数及び団員数を配慮するとともに避難所の規模等を考慮し、備蓄することとします。

【備蓄数量】

品名	計算式	数量
スコップ	現地作業職員等数78名 ÷ 2	40本
つるはし	現地作業職員等の区分数 $3 \times 2 + 2$	8本
掛け矢	現地作業職員等の区分数 $3 \times 2 + 2$	8本
脚立	避難所数 9箇所	8台
ブルーシート	避難所数 9箇所 × 3枚	27枚
ロープ	避難所数 9箇所 × 3本	27本
発電機	避難所数 6箇所 × 2台 (占冠総合センター・占冠中学校・トナムコミュニティセンターを除く)	12台
投光器	避難所数 9箇所 × 2台	18台
コードリール	避難所数 9箇所 × 2台	18台
ガソリン携行缶	避難所数 9箇所 × 2個	18個
灯油携行缶	避難所数 9箇所 × 2個	18個
懐中電灯	現地作業職員等78人 ÷ 2	40個
ろうそく	避難所数 9箇所 × 100本	900本
灯油ストーブ	避難所数 9箇所 × 2台	18台
リヤカー	備蓄倉庫	2台
拡声器	避難所数 9箇所 × 1台	9台

※現地作業職員等

・村職員（現地作業従事者）	20名	・消防職員	16名
・消防団員	42名		<u>合計78名</u>

(5) 感染症対策備蓄品

避難所における感染症対策用品を備蓄することとします。

品名	計算式	数量
段ボールベッド	避難所の収容人員の10人あたり1台	168台
避難所間仕切り	避難所の収容人員100人あたり1台	16台
空気清浄機	避難所数 9箇所 × 1台	9台
非接触型体温計	避難所数 9箇所 × 1台	9台
パーティション	避難所の収容人員100人あたり1台	16台
簡易トイレ	占冠中学校 × 2台、トナムコミュニティセンター × 2台	4台

袋式トイレ	948人×81.8%（年齢構成比）×5回×1日	3,880枚
アルコール消毒液	避難所数9箇所×10リットル	90リットル
マスク	948人×2枚	1,896枚
フェイスシールド	避難所数9箇所×20枚	180枚
手袋	避難所数9箇所×100枚	900枚
防護服・雨カッパ	避難所数9箇所×各20着	180着
大型扇風機	避難所の収容人員100人あたり1台	16台
ペーパータオル	948人×81.8%（年齢構成比）×10枚×1日	7,760枚

【参考】

■指定避難所

避難所名	所在地	面積（㎡）	収容人員（人）
双民館	字双珠別	789	100
双珠別住民センター	字双珠別	153	50
占冠村総合センター	字中央	2,509	100
占冠中学校	字中央	2,893	400
占冠村コミュニティプラザ	字中央	1,333	200
占冠地域交流館	字占冠	1,412	200
美園地区集会所	字中央	51	30
トマム学校	字上トマム	2,173	300
トマムコミュニティセンター	字上トマム	1,228	300

■令和2年4月1日現在人口

総人口	1,427人	世帯数	952世帯（1世帯当たり1.5人）
年齢区分等	人口	割合	摘要
0歳	7人	0.5%	粉ミルク、ほ乳瓶
0～2歳	19人	1.3%	紙おむつ（乳児用）
1～2歳	12人	0.8%	アルファ化米（おかゆ）
3～69歳	1,167人	81.8%	アルファ化米、ペーパータオル、袋式トイレ
70歳以上	241人	16.9%	アルファ化米（おかゆ）
10～55歳女性	368人	25.8%	生理用品
要介護3以上	13人	0.9%	紙おむつ（大人用）